

子どもが思いっきり遊べる



学童保育を存続させたい

船橋市に学童保育ができて30年。以来今日まで各地域の学童保育は、共働き家庭の小学校低学年の子にとって、放課後の生活の場として息づいてきました。そして、現在、船橋市の学童保育は36カ所に増え、1,000名余りの子どもたちが通い、安全で豊かな生活をおくっています。そのため親は安心して働くことができます。

私たちは、学童保育での子どもの生活を知っていただき、2000年4月からの学童保育の公営化後も、子どもが安心して思い切り遊べる生活の場として、学童保育が存続して欲しいと思います。同時に、劣悪な学童保育施設の現状や保育料などの条件から、学童保育への入所をあきらめている方が、現在の利用者の数倍に昇ると推測されており、公設公営にあたっては、学童保育を必要とするすべての子どもが入所できる学童保育になることを願っています。



あそびは ぼくらのおおきなたから

学童保育で子どもたちは、自分のやりたいあそびを思いっきりそこでやります。かんけり、かくれんぼ、こままわし、けんだま、びいだま、おはじき、めんこ。外ではむしとり、木の美ひろい、土だんごづくり、穴ほり、木のぼり、おにごっこだって いろおに、こおりおに、てつなぎおに、たかおにといろいろあります。主役はこどもたち自身です。

船橋市学童保育連絡協議会行事

(父母の声 1998年10月4日「秋のつどい」)



学童保育では子どもの生活を見守る指導員がいます。

毎日、「ただいま～」と帰ると、「おかえり」と指導員がむかえます。指導員は毎日継続的にその子どもと一緒にいて、「なにかいやなことでもあったかな」「体調が悪いのかな」とその日のこどもの変化に気づきます。また、指導員と親は連絡帳で毎日やりとりし、確認し合いながら子どもを見守っています。だからこそ、子どもは安心して生活できます。

(ある高学年の子どもの連絡帳から)

1/15 (親から指導員へ) 大雪の成人式の日、自宅近くの公園でかまくらづくりをして遊びました。A子はがんばって2時間半くらい吹雪の中で雪玉運びをしていました。中で紅茶と乾燥芋を食べました。

1/16 (指導員から親へ) 中でおやつ食べられるくらい大きなかまくらいいですね。(中略)。A子ちゃんは学校が遅くなり、5時近くになって帰ってきました。すぐ、リーダー会議(高学年会議)。今度のお泊まり会の相談をはじめました。6時過ぎまで夢中になって話していました。

1/17 (親から指導員へ) 1年の時から憧れていたリーダー会議へのびのび参加できるようになった月日に感謝です。(後略)

日頃の生活の中で、私は「早くしなさい」と何度も子どもに言っています。それは私自身にもゆとりがないからでしょう。だから、子どもに押しつけがましい態度をとってしまうことが多く、大人がストレスを感じていれば子どもはそれ以上のストレスを感じているのでしょう。

我が子は、家でも学童保育で教わってきた昔ながらの遊びをしていることが多く、そんな姿をを見ていると、学童保育での時間はそれ以外の時間とはまた違った時間のように思えます。ゆとりのない世界で一番の被害者は子どもです。子どもにゆとりと自主性を大切にしてもらいたいからこそ、私ももう少し気持ちにゆとりを持って生活していこうと思います。

保育園を卒園した後、まだまだ低学年の頼りない子をかかえて安心して働くためには、どうすればよいのでしょうか。年末年始以外は預けることのできた保育園と違い、学校は長い休み、創立記念日等々休みが増え、その度に休みをとることはできません。

我が子のことだけでなく、益々増えていく働く女性のすべての子どものために、早く安全な学童保育室で運営できるように。親にも子供にも負担の多い学童保育は、早く改善してください。そうでなければ、女性はまた子どもを生まなくなってしまう。

少子化が進んでいることを考慮して、最近ではいろいろな政策がすめられています。働く女性が増えてくる現在「子育てと仕事が両立できれば生みたい」という人はいっぱいいます。乳児、幼児の時は保育園があつて、何とかかりますが、実際には子どもが就学してからの方が問題なのです。学童保育がなければ、小学生をかかえたお母さんは仕事を続けられません。このままの状態でもし何か大きな事故や事件が起きたらどうするのでしょうか。

一日も早い公設公営を望んでいます。

小学生を持つ親が職場から去ったら、

日本の経済はどうなるでしょう。

大人（親）の就労と、子どもの安全で

豊かな生活を保障する施策こそ、

子育て支援と言えるのです。



お願いしたいのは、各学校に学童保育を作り、その施設を学校の敷地内に確保して欲しいということです。

我が子の場合には他の学区内にある元民家を利用してクラブに通っていますが、歩いて三〇分くらいの距離があり、わざわざ遠いクラブまで重たいランドセルを背負って毎日一往復を強いられています。

児童数減少の現在、学校には多くの空き教室があり、毎日子どもたちがなれ親しんでいる校庭があるわけですから、ぜひとも各学校の施設を子どもたちに利用させていただきたいと思っています。

長男が学童保育に通い始めてもうすぐ二年が過ぎようとしています。今まで事故がなかったのが不思議なくらいかなりの距離を歩いて行っています。

入学当時はわずか六才、慣れない学校生活、子どもにはかなり負担のすなの、学童保育までバスに乗って登所していました。

以前住んでいたところは公立の学童保育があり、当然下校後も学校で過ごすというのが当たり前だと思っていたので、船橋市に引っ越してきて啞然としました。

※「国に届け一人ひとりの声」
より父母の意見を抜粋

公設公営で私たちの望む学童保育を！

1998年10月26日 第6号

船橋市学童保育連絡協議会・船橋市学童保育指導員労組